

オステオパシーって知っていますか？

村井 俊治

オステオパシーって聞いたことないと思います。われわれ夫婦は、この7年間毎月1回オステオパシーの治療をしてもらっています。その代わりに健康診断は一切していませんから、このオステオパシーが我々の唯一の健康管理となっています。アメリカ、イギリスでは正規医療扱いですが、日本では民間療法扱いです。

インターネットでも調べられますが、次のような療法です。1874年にアメリカのアンドリュー・ステイルによって開発された徒手医学です。オステオパシーでは、身体が互いに関連したユニットで構成されているとし、徒手で背骨、関節の矯正をし、筋膜の弛緩をすることで、生活習慣病、筋肉痛、関節痛、アレルギーなどの治療をします。症状を訴えている部位と離れていて無縁と思われるようなツボを軽く刺激するだけで、肩こり、腰痛、吐き気、痺れなどを治療します。

実際に治療を受けると、こんなに軽く体をアチコチ触るだけで直るのかと思うのですが、治療中はウツトリと気持ちよく、驚くほど悪いところが直っています。先生は、解剖学をととてもよく勉強して筋肉、筋、経絡、血流などを熟知しています。現代医学と違うのは、とにかく30分から40分の間私の体を十分観察・感触して、たちどころに悪い箇所を発見して治療してくれるところです。一切検査器具、薬を使用しません。1回6000円と割高のようですが、病院に行き、クスリを大量に与えられるよりよっぽど信用できます。

「驚きの治療」の事例を紹介しましょう。2008年夏に剱岳に登山しました。私の左ひざは、5時間以上歩くと昔ねんざした後が痛み出し歩くことが困難になります。先生に事前に相談すると、大腿骨と足首の角度が正常でない指摘し、足首など軽く触り、「治療しておいたからもう大丈夫」と言いました。そして、私の足首の向きなら少しガニマタで山歩きするように注意してくれました。1日だけで12時間も歩いたのに、左ひざは全く痛くならなかったのです。安全のためにステッキは持参しましたが、オステオパシーのおかげと感謝しています。

今年は各種のアレルギー治療をしてもらいました。特に、杉の花粉症はこの30年近く悩んでいましたので、相談しました。先生は、徒手による色々な検査をした上でとにかく治療をしてくれました。治療中は、うつ伏せやらあお向けで寝たり、立ったり、椅子に座ったりで、なにを何のために治療しているか分かりませんし、質問もしません。驚くなかれ、完治はしませんでした。7割がた軽くなりました。少なくともティッシュペーパーの使用量は2割ぐらいになりました。オステオパシーは、病院とクスリに依存しない私たち夫婦の命綱です。

